

R5 高等部研究 「わかる授業」「学ぶ楽しさ」の実現を目指した授業改善

総合的な探究の時間 単元名【神奈川県自然、産業、文化、伝統】

| | | |
|---------|-------|---|
| 目標＝評価規準 | 知・技 | ①神奈川県自然や文化に触れ、体験的な活動を通し、知ることができる。 ②神奈川県自然や産業、文化、伝統の調べ学習を通し、知識等を身に付けることができる。 |
| | 思、判、表 | ①簡単な課題に対して体験活動などを行い、必要な情報を得て、他者に伝えることができる。 ②課題に対して体験活動に取り組んだり、インターネットや書籍などから必要な情報を読み取ったりしたことを、まとめたり、発表したりすることができる。 |
| | 学（＝態） | ・ 神奈川県の地域に興味をもち、自然や産業、文化等の特色について課題に取り組もうとしている。 |

***どんな授業にしていきたいの？**

修学旅行で体験してきたことを基に、さらに興味を持ったことに関心をもち、自ら考えたり、教師と一緒に考えたりすることができる。

指導と評価の実際

日付 年 月 日 修学旅行後6月～9月

授業内容(単元・題材)

「武士」「寄木細工」「温泉」「黒たまご」のグループに分かれ、さらに興味があることについて調べたり、創作したりしながら学習を深める。

評価（生徒の様子）

「武士」チームは合戦をテーマに、4人の武将にまつわる、武器、旗印、合戦について個々に調べた。タブレットや図書室の本から情報を得てまとめた。図書室の本については情報が載っていないような本を教師と一緒に探した。内容が近い友達と一緒に模造紙に調べたことをまとめた。調べたことをもとに、軍旗や刀を作成し、発表の中で披露した。
 「温泉」山梨の温泉について、どのような方法で調べるか、助言を受け考え、教師にアンケートを取ることを考えた。アンケート結果を山梨県の地図の中に書き入れる方法で行ってみたいと思えるようにまとめることができた。
 「寄木細工」もう一度作りたいという生徒のねがいから、寄木細工作りに取り組んだ。作成していく中で、気付いたことや疑問に思ったことを調べたり、学校の森などでフィールドワークしたりした。
 「黒たまご」ゆで卵の作り方や卵を黒くする方法を試しながら、結果をまとめたりした。生徒の実態から、教師が主導で取り組んで来たが、生徒から発せられる言葉を拾い、まとめとし、発表した。

目標・評価規準について

思考判断表現では、文献やタブレットを使い調べることを目標としたが、実際に体験をしながら感じたり、考えたりしている。目標を書き加えていく。評価規準も読み取り方によっては評価が変わってくる場合がある。評価基準は誰が見ても評価できることが基本となるため、授業者の意図などを共通確認しておくとうい。

改善の視点

授業の回数が変動する可能性があり、発表の日程に合わせて活動内容を調整していく。

「主体的・対話的で深い学び」の具体的な場面（具体的なやりとりと成果と課題）

- ・修学旅行後に実際に行ったり、旅行記等をまとめたりするなかで、楽しかったことや印象深かったことがそれぞれの生徒の中であった。その中で、課題を見つけることは難しいが、またやってみたいこと（たべたいこと）、さらに興味をもち調べたいことを聞くと、どの生徒も答えることができた。そのことについて学習を進めることで、どの生徒も意欲的に学習に取り組むことができている。
- ・「武士」チームは個々で調べているが、近い内容の生徒と組むことで、お互い話をし、確認しながら、調べたり、まとめたりする場面がみられている。
- ・成果発表会の中では、校長先生や梅津先生に発表を聞いてもらうことで、意欲的に発表することができたり、他のチームの発表に質問をし合ったりと生徒同士でのやり取りをする場面が見られたりした。
- ・インプットした知識をアウトプットする方法としては、まとめて発表するだけでなく、学習したことに関わる物を作ったり、何かしらの方法で表現したりすることも、生徒たちにとっては大切な学習となっている。